

社団法人私立大学情報教育協会  
平成 21 年度第 5 回被服学教育 FD/IT 活用研究委員会議事録

- I. 開催日時 平成 21 年 12 月 26 日(土) 13 時～15 時  
II. 開催場所 私立大学情報教育協会事務局会議室  
III. 出席者 高部委員長、阿部委員、軽部委員、田中委員、鈴木アドバイザー  
井端事務局長、森下、恩田

検討事項

1. 記録担当者の決定

2. 被服学の情報教育について

12 月初めに行われた分野別教育「学士力考察」の文部科学省および関係機関への報告・提言に関して事務局から報告があった。本委員会で作成した学士力は、公の意見を取り入れて作成した信頼性の高いものであることを強調した。私情協としての「到達目標」は、学部卒業時点で「社会人として身に付けるべき力」を「知識・理解」、「技能」、「倫理・態度」、「活用・提案」に配慮して最低基準を設定した。到達度では「学びの量と質」の水準を明示し、専門教養としての到達度を設定した。測定方法については「学びの持続可能化」、「学びの体験化」、「学びの活用・実践化」の観点から検討を行い、暗記型学習を誘発する従来型試験による測定を減らすように極力配慮し作成した。

本協会の事業目的である「教育改善のための情報通信技術の活用研究」と「分野別学士力を実現するための情報教育の改善研究」は、新たにカリキュラムや授業科目を作るのではなく、情報教育という視点を持って教育を展開していくこと。この使命を継続的に行うために、情報教育研究委員会の設置が常務理事会で検討されており、被服学教育からも情報非専門分野別教育分科会に出席する代表者を検討してほしいとの要請があった。情報教育検討の進め方として到達目標、到達度、教育内容、教育方法、到達度確認の測定手段、教材及び教育環境の事項に沿って内容を検討することの説明があった。

以下は第5回委員会で検討した到達目標と到達度である。

到達目標1

被服の役割や構造を理解し、情報通信技術を用いて現代社会に適合した被服の設計やデザインを表現できる。

到達度

- ① 被服に関する適切な情報(歴史・人体・被服構造・素材・管理)の所在を知っている。
- ② 文書作成, 表計算, 画像処理などの基礎的な情報技術を身に付けている。

- ③ データベース, アーカイブス, 文献等から適切に情報収集・分析ができる。
- ④ 被服のデザインや設計に3D 計測, CAD, CG などのアプリケーションソフトが活用できる。
- ⑤ 情報通信技術を用いて被服に関する画像表現, 造形表現などのシミュレーションやプレゼンテーションができる。

## 到達目標2

被服の生産・流通・消費を通じた衣生活の質の向上に情報通信技術を活用できる。

## 到達度

- ① 最近の産業構造や生産・流通の仕組みを理解するために情報通信技術を活用できる。
- ② 情報通信技術を用いて, ライフスタイルに合わせた商品開発ができ, 衣生活の問題点を共有し, 商品の品質向上につなげることができる。
- ③ 情報通信技術をローカルかつグローバルなシェアリングシステムやリサイクルシステムに活用できる。

## 2. 今後の検討スケジュール

- ・「教育内容」, 「教育方法」, 「到達度確認の測定方法」を検討する。

## 3. その他

- ・情報教育研究委員会の分科会代表者として阿部栄子委員が選出された。
- ・次回の委員会開催日 平成22年2月22日(月)15:00~17:00

以上